

井上通信

No.20

高知県では桜が満開を迎えた4月1日、井上石灰工業株式会社および井上ワイナリー株式会社では、5名の中途採用社員を迎え、合同入社式を執り行いました。社会人経験者である彼らは、それぞれのキャリアを活かしながら、新たな環境での挑戦となります。

新たな環境ながらも真剣なまなざしで式に臨む姿からは、仕事への意欲や緊張感がひしひしと伝わり、私たちにとっても新鮮な刺激となりました。これまで築いてきた経験を大切にしつつ、新しい風を社内に吹き込んでくれることを期待しています。今後は一定期間の社内研修を経て、営業、バックオフィス、井上ワイナリーの各部門に配属されます。それぞれの職場で実務を重ねながら、組織の一員としての役割を学び、着実に成長していきます。同期や先輩社員と助け合いながら学び、会社の理念にもある「無比なる価値」をお客様へお届けできるよう一層努力します。そして、翌日4月2日には、会社駐車場にて新入社員との懇親BBQ会を開催しました。部署や年齢を超えて交流を

平岡執行役員の一言

私は中学生の子どもが二人おり、日々部活を頑張っています。ありがたいことに部員全員がレギュラーです。その中、県大会が INOUE・東部スポーツパークで開催されることになり、応援に行った際に、丁度、大々的に張り出されている弊社のロゴを見て (2024年10月1日より)、高知県内での認知度が上がっていると実感しました。親戚にも気づいてもらい、子どもも嬉しそうでした。近くに行く際は是非見てもらえると嬉しいです。

し、和やかな雰囲気にも包まれました。世代や立場を超えて協力し合えることが私たちの強みのひとつです。今後も皆さまの期待に応えられるよう努めてまいります。



井上のお石灰な話

INOUEの思い出編

- 在職時の思い出や覚えていらっしゃることを教えてください -

私は、試験室におりました。川の向こうにはいろんな会社の共同の研究室がありました。この会社は自分のところに試験室を持っていました。コンクリートの建物で2階はクーラーもなく、ほこるから窓も開けられなくて。いつもアイスノンを腰に敷いていました。夏は本当に暑かったですね。そうやって黙々と試験や研究を重ねてきたからこそ今があると思います。

(昭和37～42年在職 溝渕 玲さん談)



季節が春に移る時期は、オリ引きやデゴルジュマンなどのオリに関する作業が中心になります。オリはブドウ由来の成分が沈殿したものと、活動を終えた酵母の2種類に大きく分かれます。後者のオリをワインと長期間接触させることでワイン中の溶存酸素やタンニン等のフェノール類の吸着が行われ、死滅した酵母が自己消化することでアミノ酸や多糖類、脂質等がワイン中に共有されて味の厚みなどが増していきます。オリとの接触期間を判断したり、オリをきちんと落とすために収穫時の酸度やPHが鍵となります。毎年条件が異なるブドウからバランスの良いワインをどうすれば造れるのか、収穫から瓶詰めまで毎日ワインと向き合う日々が続きます。

わしは昔から土佐のいごっそうじゃき!

土佐の方言紹介 「いごっそう」

【意味】 芯の強い人 (男性に使う)

【説明】 「土佐のいごっそう」として有名な表現で、一本気で筋を通す男性を指します。

【使い方】 あの人にはほんまのいごっそうじゃき (あの人には本当に頑固な人だ) ちなみに女性版は「はちきん」と言われ、どちらも高知では親しみを込めた表現です。



井上ワイナリー